

## 相国寺境内発掘調査現地説明会資料

平成16(2004)年10月24日

調査地 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701

調査期間 2004年6月21日～11月12日(予定)

調査面積 約1,300㎡

調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所

### はじめに

相国寺境内の北東に位置する承天閣美術館が増設されることとなり、工事に先立って発掘調査を実施しています。今回の調査地の大半は、桃山時代天正年間(1573～1592)に創設され、明治6年に廃絶された相国寺の塔頭寺院である「劫外軒<sup>ごうがいけん</sup>」に比定されています。また、調査区の東側には南北方向の土塁が現存しており、これが相国寺の南側に位置する御所に水を供給した「禁裏御用水」と呼ばれる水路に伴うものと推測されていました。調査の結果、調査区の西側で劫外軒の建物基壇や瓦積の溝などを、東側では土塁に沿って南北方向の水路を検出しました。

### 遺構の概要

**劫外軒跡** 調査区の西部で建物基壇を検出しています。基壇は東西約5m以上、南北約10m、高さ約0.5mあり、南辺は径30～50cm程度の自然石を積んで化粧としています。また、南西の調査区では両岸に瓦や石で護岸した溝なども検出しました。

これらの遺構の上には、焼土や焼けた瓦が堆積しており、江戸時代の天明8年(1788)の大火によって焼亡したものと考えられます。

**禁裏御用水跡** 調査区の東部では、基底部の幅約4m、高さ約2mの南北方向の土塁を検出しました。この土塁は調査前から地上に盛り上がり残存しており、現状では調査区の南側で西に折れ曲がり、美術館の入り口付近まで続いていることが観察できます。その土塁の東側に沿って、幅約2m、深さ約1mの水路を検出しました。この水路は寛永14年に描かれた『京中絵図』や天明の大火以前に描かれた『承天相国禅寺寺域図』などの絵図から、相国寺の南に位置する御所に給水していた「禁裏御用水」と呼ばれる水路であると考えられます。出土した土器類から水路の開削時期は桃山時代に遡る可能性があります。そして、西側の土塁は、劫外軒の敷地を水路の氾濫から防御するための施設であることがわかりました。

### まとめ

1. 「劫外軒」に伴うと考えられる建物基壇や溝を確認でき、相国寺塔頭内の建物配置や焼亡の状況を確認することができました。
2. 御所に給水する「禁裏御用水」と考えられる水路を確認することができ、その水路が相国寺境内で流れていた状況や開削の時期を知る手がかりを得ることができました。

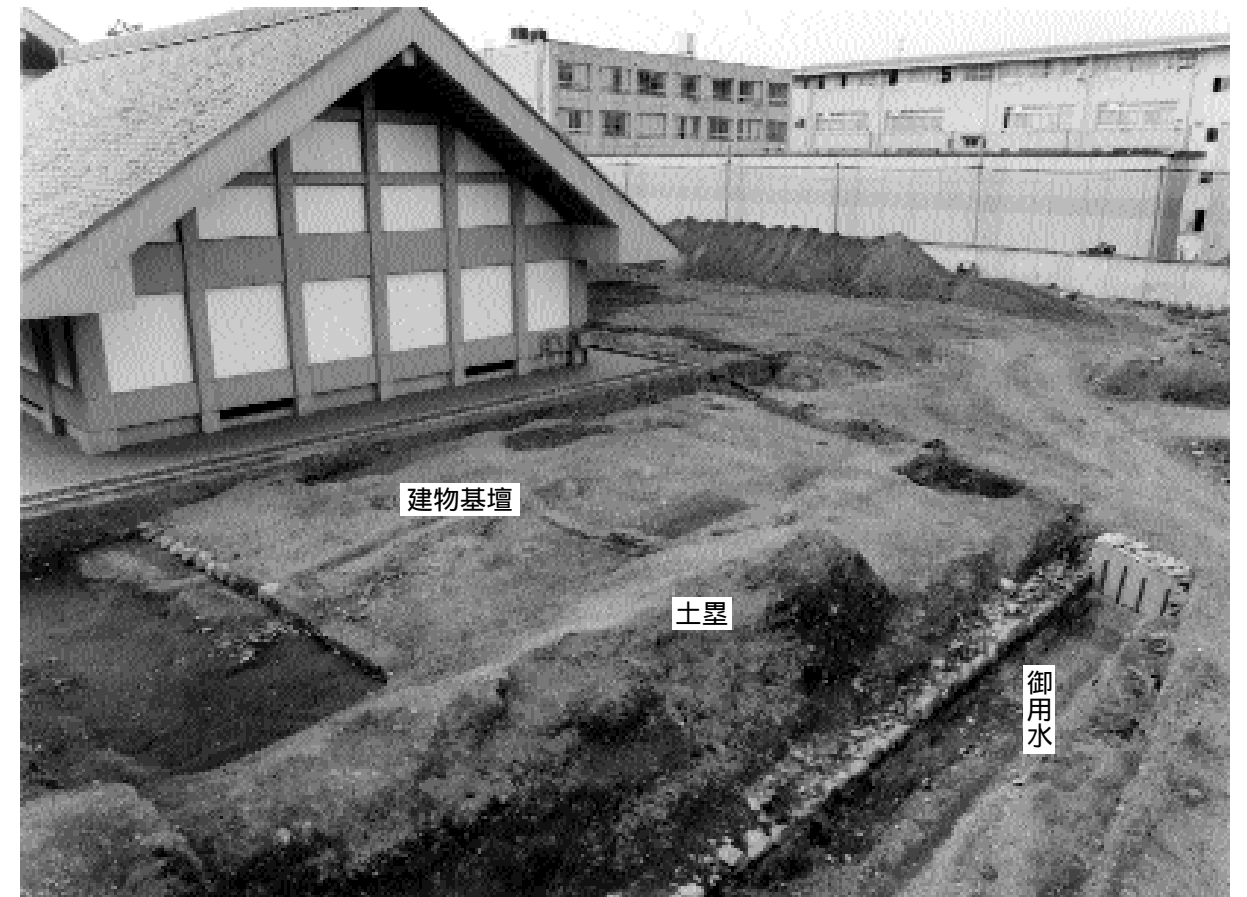
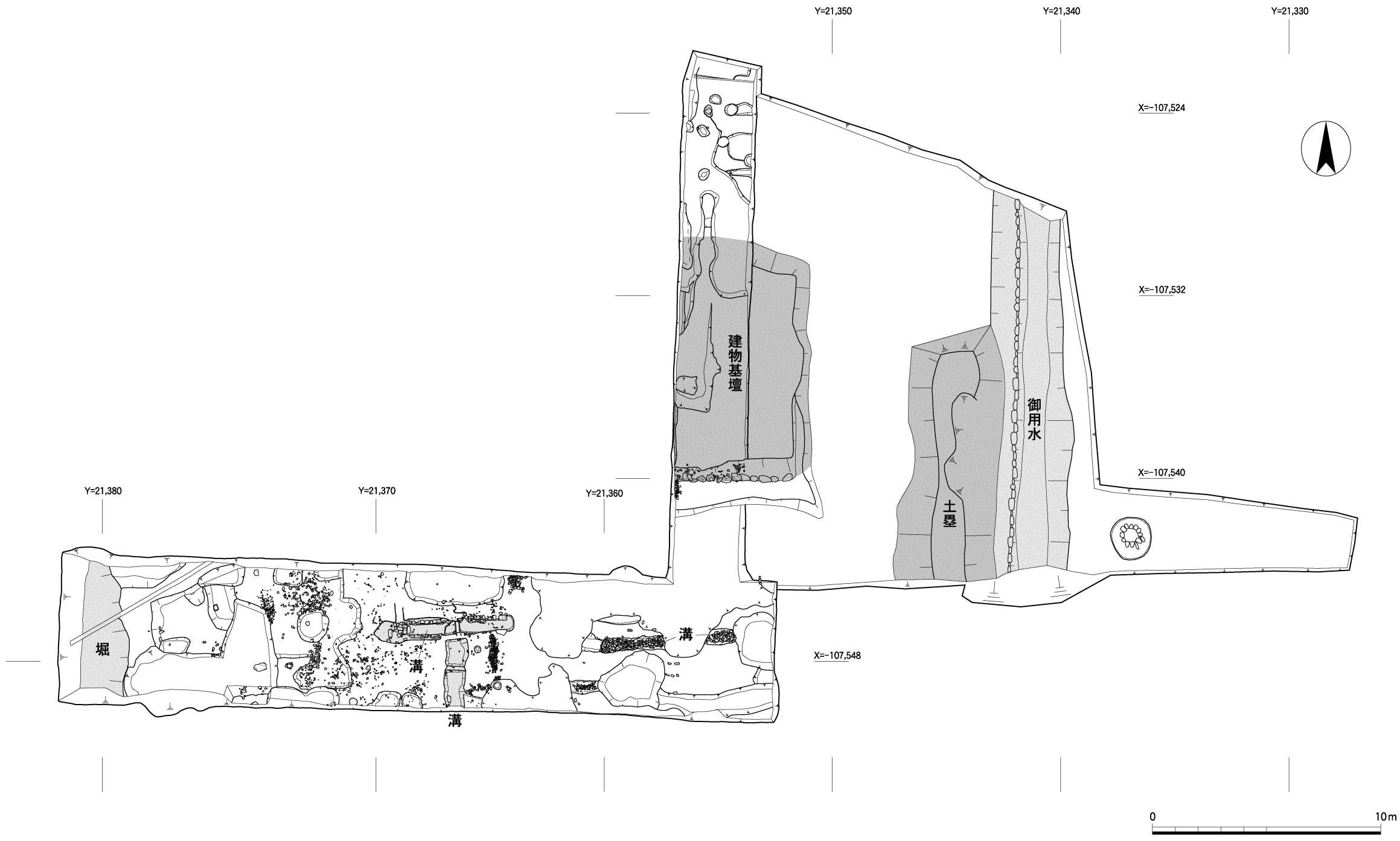


写真1 全景(南東から)



写真2 溝(瓦積み、南東から)



調査区平面図 ( 1 : 200 )